

# 2015年

## 秋の課題作文優秀作品

### 【小学部】

ふれあいの丘校 U・Sさん（川和東小）

メディアリテラシーとは、わたしたちがいつも見ているテレビ、新聞に書いている事をそのまま受け取るのではなく、自分なりに考えて判断する事です。

今年の八月に安倍談話が発表されましたが、その中に「日本の過去の行動について、未来にわたって謝罪し続けるのは止めていきたい。」という内容がありました。わたしはこれについて自分がやっていけないことをあやまるのはいやだなと思いました。だけど、新聞やテレビで日本がいじめをしたと言っていたら、それを信じ、悪いイメージを持ち続け、永遠に仲直りができないと思います。

わたしも以前、仲の良い友達が自分の悪口を言っていると他の友達から聞かされてとてもショックだったことがあります。でも、私はその友達がとても優しい子で、人の悪口を言うような子ではないと信じていたので、真実は自分の目と耳で確かめたことだけだと考えました。もし、わたしがその時に「悪口を言っていたよ。」と言った友達だけを信じていたら、大切な友達に対し、いやなイメージだけをいじめてしまっていたと思います。

今回、新聞によって安倍談話に対する評価が異なることを知って、メディアリテラシーを高めていくために、一つの情報にとらわれず自分で確かめたり調べたりして、真実をみきわめる努力をしています。これからわたしは自分の意見をきちんとかかりやすく伝えられるように、色々な勉強をがんばりたいです。そして将来わたしは自分の意見をしっかりと伝えられるような大人になりたいです。

十日市場校 S・Dくん（十日市場小）

メディアリテラシーとは、テレビ、新聞、インターネットに代表されるメディアによって伝えられる情報を、適切に読み解く力であり、そのメディアを使用し、表現する力のことだ。また、メディアに惑わされることなく、現代の情報化社会を生き抜く力を身に付けることだ。

今年の八月に安倍談話が発表されたが、その中に「日本の過去の行動について、未来にわたって謝罪し続けるのは止めていきたい」という内容があった。私はこれについてこう思った。

私は日本で生まれ、日本で育った日本人である。戦後七十年経った今、戦争Ⅱ昔というイメージがある中でも、日本人として生まれてきたからには、過去を受け継いでいかなければならないと思う。

以前、「火垂るの墓」を観た。初めて観た時の衝撃は今も忘れられない。今の私たちの生活とは、あまりにもかけはなれた世界だった。こんなことが、戦争中、現実起きていたなんて、本当に信じられないと思った。

私は小さい頃、両親にこう教わった。「悪い事をしてしまった時は、相手が許してくれるまで、心を込めて謝るんだよ」と。やはり私は、戦後何十年たったとしても、過去のけじめとして、反省や謝罪をし続ける必要があると考える。

今回、新聞によって安倍談話に対する評価が異なる事を知って、メディアリテラシーの重要性がわかった。私はメディアリテラシーを高めていくために、これからもっと読書をしていきたいと思う。本には作者一人一人の考え方や体験、多くの知識が書かれている。私は読書を通じて、より多くの知識を蓄えていきたいと考える。将来、私はメディアリテラシーを高め、情報社会を生き抜くために、正しい情報を見極め、活用できる大人になりたい。

長津田校 M・Aさん（長津田第二小）

私は、「安倍談話」の中にある、侵略やお詫びといった表現が、過去の「村山談話」を引用するような内容であったことについて、本当に謝罪やお詫びをする気持ちがあるのなら、過去の言葉にとらわれず安倍首相自身の言葉で謝罪を表現すべきだと思った。もちろん、安倍首相が謝罪やお詫びをするつもりがないわけではないのは理解している。だが、相手国から見れば、「前と同じことを言っているだけで今の日本には我々に対する気持ちがないのではないか」と受け止められても仕方がない。相手国にそんな誤解をされないためにも、「安倍談話」には首相自身の言葉で謝罪することが必要だったのだと思う。

各新聞社によって評論が大きく異なっていることについては、「安倍談話」が公式に発表されたころ、ニュースでその違いについて報道されていたのを見た。そのニュースの解釈は、「主な観点が異なるため」となっていた。私も各新聞社によって、特にこの部分を評論しようと思ったところが異なるから、意見が大きく分かれたのだろうと思った。

今回のように同じ物事が色々な新聞社に異なる観点から評論されるのは、とても良いことだと感じた。なぜなら、自分と異なる観点から評価している記事を見ることで、様々な意見に対して自分の意見を比べられ、それこそが「メディアリテラシー」の向上につながるからだ。

「メディアリテラシー」とは、新聞やニュース、インターネットなどを通じて発信される情報をそのまま鵜呑みにせず、自分なりに解釈し活用していく力のことだ。それに付け加え、私は自分と他人の考えを比べる力もメディアリテラシーの一つだと思う。それを高めるためには、一つの物事を様々な観点から考え他人と自身の考えを比べるといいと思う。そして、今後、社会を支えていくには一人一人のメディアリテラシーが欠かせないのだと私は思う。

## 【中学部】

中山校 S・Yくん（中山中）

メディアリテラシーとは、情報を自分の意志、判断に基づいて読み解き、その真意を見抜き、活用する能力のことである。

現代社会における情報伝達技術の発達により、僕達の周りには常に膨大な量の情報が取り巻いている。役立つものもあれば、真実かどうか疑わしいものもあり、中には全くの嘘も存在する。つまり、僕達は日々、自身の「メディアリテラシー」を試されているのだ。情報の真意を見極めることができないと、僕達の思考や感情は、時として間違った方向へ導かれることもある。僕はある出来事からこのことを学んだ。

昨年の御嶽山の噴火直後に、テレビ番組内で述べたとされている麻生副総理の言葉「噴火により亡くなられた方々に激励申し上げます」この情報はまたたくまにインターネット上に拡散され、「激励」という言葉に対し不適切だという批判が相次いだ。しかし、事実は異なっていた。実際には麻生副総理は「亡くなられた方々にはお悔やみ申し上げますと共に、被害にあわれた方々にも激励申し上げます」という内容の発言をしていたのである。つまり、同じ情報でも発信された意図や背景を知ることによって、受け取る側の持つ印象が大きく変わってくるということだ。

では、メディアリテラシーを高めるためにはどうしたらいいのか。それは、メディアからもたらされる情報が必ずしも正確ではないということを理解した上で、色々な視点から情報を見すえ、その中から自分が正しいと思う情報を選ぶことである。そしてそのためには、物事を常に自分で考えするという習慣を身に付けていくことが必要不可欠だと思う。

柿生校 N・Mさん（白鳥中）

「メディアリテラシー」という言葉は初めて聞いた。現代はテレビや雑誌、ネットなどによる情報があふれている。すべての情報を鵜呑みにしては混乱するだろう。そこで、多くの意見に耳を傾けたうえで、自分なりに評価・判断することが大切だと私は考える。

安倍晋三首相の「戦後七十年談話」の記事で、各新聞社の見解が違ったのは当然だと思う。新聞記者も個人であり、様々な解釈があるはずだからだ。しかし、新聞は幅広い年齢層の人々が読むので、読む側にも色々なとらえ方がある。戦争を経験したお年寄りとは、そうでない若い人では感じ方が違うので、やはり読者に合わせた記事を書くのは無理だと思う。

私の曾祖母は『三十八度線を越えて』という戦争体験の手記を遺している。私は今年初めてその手記を読んで、今まで過去の歴史として見ていた戦争を少し近く感じた。曾祖母は子供を一人亡くし、大変な苦労を重ねて故郷に帰ってきた。手記には、本当に平和を祈る強い気持ちが見られる。戦争中、日本にも多くの犠牲者がいて悲しみや苦しみがあった。国家として侵略や植民地支配の歴史的な事実を認めて日本の政治家が謝罪を続けることは、相手国の気持ちを考えると必要かもしれない。そのうえで、二度と戦争を起こさないようにすることが一番大事なことではないか。

メディアから発信される内容は必ずしも世間一般の声とは限らない。メディアから情報を受けた時に、納得できたり疑問を持つたりすることが大切なことだ。それをきっかけに自問自答して考えてみたい。メディアからの情報が正確だと信じ込むだけでなく、個人にも広く考えるための視野を持つことが必要だ。